

第109回 経営協議会議事録

日 時 令和4年6月29日（水）14時00分～15時30分

場 所 和歌山大学南1号館（事務局棟）3階共通会議室

出席者 伊東学長

島委員、清木委員、田村委員、渡辺委員

永井、恵下、中川、松谷、山本 各理事

（松原監事、柏原監事、添田副学長、足立副学長、マグレビ副学長、本山教育学部長、芦田経済学部長、野村システム工学部長、尾久土観光学部長、満田戦略情報室長、橋本企画課長、南方総務課長、猪原財務課長）

欠席者 下委員、辻委員、西平委員、森田委員

学長から、第107回（3月28日）及び第108回（書面審議）の議事録について確認があった。

続いて、今回が本年度最初の対面による開催であることから、学長から、昨今の本学における各種取組の報告を含め、学外委員に対し挨拶を行うとともに、経営協議会委員の紹介を行った。

議 題

1. 第3期中期目標期間に係る業務の実績について

松谷理事から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、了承した。

（主な質疑）

・教育学部における「小規模校活性化支援事業」は大変良い取組であると思う。この取組について、①単位認定を行っているのか、②必要経費を大学が負担しているのか、③県や市町村の教育委員会との連携状況について教えてほしい。

→ ①単位認定をしっかりと行っている。②ステイホーム先への補助や学生の交通費を大学が負担している。③和歌山県の協議会から注目されている取組であり、県とも連携を図っている、市町村の教育長とも連携しており、取組について公表も行っている。

・当該取組と合わせて、地域【紀南】推薦枠入試についても成果が出ており、小規模な地域を対象とした取組について、和歌山県としても重要な取組であり、評価したい。

・教育現場でしっかりと頑張っている教員もいる中で、一部の報道では学校現場がブラックなイメージとして報じられており、尻込みする学生がいる

| |
|---|
| <p>のではないか。また、KPIが導入されて、教育現場が数字合わせの場となっ てしまっている。和歌山大学の教育学部では、教育現場のリーダー、学校 経営ができる人材の育成に取り組んでいただきたい。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナーシップ教育の充実は重要であると考えている。民間企業内でも起業者育成に努めており、各個人が事業展開できるような力を身に付けることは社会的な意義は大きい。和歌山大学の取組の方向性について教えてほしい。 |
| <p>→ 本学としてもアントレプレナーシップ教育の充実を含めたイノベーション人材の育成が重要であると認識しており、自治体や企業等と連携して取り組んでいきたい。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県内等の首長とのトップ対談において、首長が大学に対して一番期待していることは何か。また、それを踏まえた具体的な取組について教えてほしい。 |
| <p>→ 学生による地域インターンシップへの参加など、学生を地域に出してほしいという声大きい。本学としても、地域課題の解決につながるような活動に積極的に学生が参加していけるよう、支援していきたい。</p> |
| <p>2. 令和5年度概算要求（案）について</p> <p>中川理事から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承した。</p> |
| <p>報 告</p> |
| <p>1. 第4期中期目標・中期計画記載事項の各年度取組予定等について</p> <p>松谷理事から、資料3に基づき説明があった。</p> |
| <p>2. 重点的取組事項（アクションプラン）について</p> <p>松谷理事から、資料4に基づき説明があった。</p> |
| <p>3. 令和4年度役付職員等について</p> <p>学長から、資料5に基づき説明があった。</p> |
| <p>4. 社会インフォマティクス学環設置に係る事前相談の結果について</p> <p>永井理事から、資料6に基づき説明があった。</p> |
| <p style="text-align: right;">以 上</p> |